

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標4_都市基盤・防災・防犯・消防】

施策 4-8_運輸交通体系の整備

基本計画		事業番号	細事業名称
4-08-01	公共交通の維持・整備	00159_02	新造船建造取得事業
4-08-01	公共交通の維持・整備	02295_01	デマンドタクシー運行事業
4-08-01	公共交通の維持・整備	07024_03	生活路線維持運行対策事業補助金
4-08-01	公共交通の維持・整備	07128_01	別子山地域バス運行事業
4-08-01	公共交通の維持・整備	07245_01	新居浜駅開業100周年記念事業

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	00159_02		
事業名(行目名称)		渡海船整備事業	細事業名	新造船建造取得事業			
総合計画	まちづくり	都市基盤・防災・防犯・消防	施策	運輸交通体系の整備			
	基本計画	公共交通の維持・整備	担当課	地域交通課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	渡海船整備事業利用者数		数値	88955		
	手段(どうやって)	平成21年に独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構との共有建造による新船建造工事請負契約を締結。平成23年11月から新造船「おおしま7」が就航した。同機構との旅客船共有契約により、共有開始から11年間の船舶使用料の支払いを行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	国土交通省運輸局の外郭団体である独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構との共有船制度を利用することで、有利な資金計画・高度な建造技術の支援を受けることができ、船体設計の専門家のいない自治体単独での船舶建造よりもより安全で実用性の高い船舶の就航が可能となり、新船建造による配船計画に基づく安心安全を配慮した運航事業を行う。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	「おおしま7」共有船舶使用料 31,107千円	
経費		31,755	31,107	31,107	31,107		
財源	県・国支出金	31,755	31,107	31,107	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	0	0	0	31,107		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
1日渡海船運航便数		目標値	15	15	15	15	15
		実績	15	15	15	15	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
特になし							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
平成23年に就航した「おおしま7」の使用料として、平成23年度から令和4年度(11年間)まで独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構に支払う。令和4年度が使用料を支払う最終年度であり、使用料とは別で、残存簿価分の支払いが発生する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当				
平成23年度の新船建造後、共有者である鉄道建設・運輸施設整備支援機構への使用料の支払いを平成34年度(令和4年度)までの11年間行うため、計画通りに事業を進めることが適当。							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	02295_01			
事業名(行目名称)		デマンドタクシー運行事業費	細事業名	デマンドタクシー運行事業				
総合計画	まちづくり	都市基盤・防災・防犯・消防	施策	運輸交通体系の整備				
	基本計画	公共交通の維持・整備	担当課	地域交通課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	バス交通空白地域、高齢者等交通弱者		数値	55000			
	手段(どうやって)	バス交通空白地域へ導入する新たな公共交通の形態をデマンド型乗り合いタクシーを第一候補として、平成23年1月から平成26年9月までの試験運行を経て、平成26年10月から本格運行を実施。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	現在、バス交通の利用できる地域は人口ベースで50%以下と低い割合となっている。また、高齢化が進行し、自動車利用のできない若しくはしない人が増加し、その人たちの移動手段の確保が重要な課題となってくることが明らかであり、市内を移動する公共交通の整備の重要性は高い。このことから、バス交通空白地域へ新たな公共交通を随時導入し、高齢社会に対応し、高齢者や障害者などの交通弱者のための市内公共交通体系を確保する。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		18,039	18,311	18,311	20,238	新居浜市地域公共交通活性化協議会に対する負担金 18,311千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
一般財源		18,039	18,311	18,311	20,238			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
乗車人数(人)			目標値	20361	20000	20000	20000	20000
			実績	19545	17135	8294	16504	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
特になし								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
バス交通不便地域の補完的交通手段として導入されたデマンドタクシーの需要は高く、今後も高齢化の進展により交通弱者が増加すると考えられるため、移動手段の確保として継続が必要である。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)	C:事業規模・内容・実施主体の見直し検討					
上部・川東地区においては、高齢者等交通弱者の買い物や通院の足として定着している。 川西地区においても、バス交通空白地域解消・交通弱者の移動手段確保を求める要望があるため、新たにデマンドタクシーの導入を検討することとする。								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	07024_03		
事業名(行目名称)		生活路線維持運行対策費	細事業名	生活路線維持運行対策事業補助金			
総合計画	まちづくり	都市基盤・防災・防犯・消防	施策	運輸交通体系の整備			
	基本計画	公共交通の維持・整備	担当課	地域交通課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	お年寄りや子供等の交通弱者など(未成年、60歳以上人口)		数値	66685		
	手段(どうやって)	利用者の減少等により、路線維持が困難となっている路線を維持するために、バス事業者に対して運行費の一部を補助する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	廃止、縮小の傾向にあるバス路線を維持し、交通弱者の足を確保する。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		75,090	58,677	97,957	86,226	路線バス運行事業者である、瀬戸内運輸(株)に対する補助金 58,677千円	
財源	県・国支出金	15,894	14,564	16,065	16,065		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
一般財源		59,196	44,113	81,892	70,161		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
路線系統維持率(%)			目標値	100	100	100	100
			実績	100	100	100	100
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、バス利用者が減少。それに伴い補助金の増額が見込まれる。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
高齢者や障がい者などのいわゆる交通弱者の交通手段を確保するためには生活路線バスの維持が必要であり、あわせて利用者の安全性・利便性向上のためバリアフリー車両の導入を推進する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	B: 事業の進め方の改善検討				
長引く新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により経営環境が悪化したバス事業者を支援することにより、バス路線を維持することができた。しかし、持続可能な公共交通網維持のため、事業者に対し住民ニーズに合致したバス路線の見直しや利便性向上の取り組みを求め、収支の改善を目指したい。							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	07128_01		
事業名(行目名称)		別子山地域バス運行費	細事業名	別子山地域バス運行事業			
総合計画	まちづくり	都市基盤・防災・防犯・消防	施策	運輸交通体系の整備			
	基本計画	公共交通の維持・整備	担当課	別子山支所			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民(地域バス利用者)		数値	120,351人		
	手段(どうやって)	市民・地域住民が利用しやすい地域バスとなるよう利用者の要望を把握するなどして、運行時刻の見直しなど利用効率の改善に努めた。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市街地と別子山地域との交流を活性化し、地域住民の利便性向上、別子山地域への定住促進を図ることにより、地域の振興と福祉の向上を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	需用費 消耗品(エンジンオイル等) 201千円 燃料費 2,323千円 器具修繕料 799千円 役務費 手数料(オイル交換等) 114千円 火災保険料 172千円 自動車保険料 26千円 委託料 バス運行委託 16,477千円 使用料 施設使用料 30千円 高速道路通行料 75千円 公課費 重量税 30千円	
経費		19,393	20,806	20,806	21,033		
財源	県・国支出金	6,000	6,000	6,000	4,514		
	地方債	10,100	10,100	10,100	10,100		
	その他	3,293	4,706	4,706	6,419		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
年間利用者数(人)		目標値	4000	6000	5000	6000	6000
		実績	6533	4660	2191	4398	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
マイクロバスが自損事故や故障による修繕が多かったが、運行の支障はありませんでした。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
別子山地域バスは、別子山地域と新居浜市街地とを結ぶ唯一の公共交通機関であり、別子山地域住民の新居浜市街地への通勤、通学、通院や別子中学校生徒の帰省にはなくてはならないものであることから、翌年度以降も継続する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
年間を通じてマイクロバスについては故障による修繕が多かったが、運行への支障なく事業を実施できました。利用者も前年並みの4千人を超える利用があり、別子山地域と新居浜市街地を結ぶ唯一の公共交通機関としての役割を果たしています。							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	07245_01		
事業名(行目名称)		新居浜駅開業100周年記念事業費	細事業名	新居浜駅開業100周年記念事業			
総合計画	まちづくり	都市基盤・防災・防犯・消防	施策	運輸交通体系の整備			
	基本計画	公共交通の維持・整備	担当課	地域交通課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜駅または公共交通を利用する市民等		数値	117439		
	手段(どうやって)	新居浜駅開業100周年を記念したイベント等を新居浜駅周辺施設等で行い、駅に関連したパネル展を併せて実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	新居浜駅開業100周年に合わせてJR四国と連携して記念事業を実施し、四国デスティネーションキャンペーンとも連動させたJRを利用した観光客の誘客を行う。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	新居浜駅開業100周年記念事業実行委員会負担金	
経費		0	5,500	5,500	4,781		
財源	県・国支出金	0	0	0	2,390		
	地方債	0	0	0			
	その他	0	5,500	5,500	2,391		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
100周年記念イベント来場者数		目標値	0	0	10000	0	0
		実績	0	0	10400	10400	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや低い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	休止・廃止する				
<p>コロナ禍でのイベント開催となり、感染症対策を最大限に行い実施した。密を避けるため、入場者数を制限したり、飲食はテイクアウトのみにするなど、様々な制限がある中で、「感染対策期」から「感染警戒期」への移行後の初めてのイベントということもあり、関心も高く、多くの方に参加していただけた。同時に開催している3駅(新居浜・中萩・多喜浜)でのパネル展についても、昔を懐かしんでもらうことができた。そうすることで、駅に関心をもってもらい、公共交通にも関心を持ってもらう一助になったと考えられる。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
100周年記念事業終了による。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	D:事業の統合・休廃止を検討				
<p>コロナ禍でのイベント開催となり、感染症対策を最大限に行い実施した。密を避けるため、入場者数を制限したり、飲食はテイクアウトのみにするなど、様々な制限がある中で、「感染対策期」から「感染警戒期」への移行後の初めてのイベントということもあり、関心も高く、多くの方に参加していただけた。同時に開催している3駅(新居浜・中萩・多喜浜)でのパネル展についても、昔を懐かしんでもらうことができた。そうすることで、駅に関心をもってもらい、公共交通にも関心を持ってもらう一助になったと考えられる。</p>							